

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>法人理念と同様にグループホームの理念と各ユニットの理念を作成し、エレベーターの前やユニットに掲げミーティング等で話し合い実践に繋げている。</p> <p>【法人理念】 安心・安全・安堵をモットーに私たちは常に向上心を持って心の通う運営を目指します。</p> <p>【グループホーム理念】 私たちは入居者の家事活動を重要視します。またレクリエーションや外出など楽しみを多くもてるようにします。</p> <p>【フロア理念】 私たちは家族のように何でも話し合え楽しみ、笑い、安らぎのある居場所を作ります。そして諦めないでどんな事にも挑戦してみんながひとりひとり役割も持てるよう傍に寄り添い手助けをします。</p>	<p>法人理念を基に、「私たちは入居者の家事活動を重要視します。またレクリエーションや外出など楽しみを多くもてるようにします」と具体的なホームの理念を掲げています。3つのユニットでは、ホームの理念を実践するために、それぞれ、リーダーを中心に職員間でフロア理念を作成し、掲げています。管理者以下職員は理念を共有し、利用者の能力を失わず、できる喜びを感じてもらい、一人ひとりの幸せに近づきたいとの思いで支援し、利用者の希望を実現する個別外出や一泊旅行など、外出の機会が多いのもホームの特色となっています。ホームの理念・フロア理念は、各フロア入口に掲示し、家族や地域の方達にも理解してもらっています。理念は、ホームの変化に応じて、現状のままではどうか検討し、見直しも行っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>地域の祭りに参加したり事業所の夏祭りやバザーへの参加を呼びかけたりと地元の人々と交流することに努めている。地元小学校、中学校の労働体験や訪問を積極的に受け入れている。馴染みの関係が出来るよう、同じ場所に定期的に外出し挨拶等の言葉を交わす事で馴染みの関係を築いている。</p>	<p>近隣の小学校・中学校の運動会や文化祭、地域の祭りへの参加、また、ホーム主催の夏祭りやバザーに地域の方々が参加する等、地域との交流に努めています。茶道・傾聴ボランティア等の協力は、利用者の楽しみとなっています。毎月の認知症カフェの中で3ヶ月毎に開催する「認知症知っと講座」の実施等、地域の中で認知症への理解を深めてもらうための情報発信にも積極的に取り組んでいます。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の方、認知症高齢者の本人や家族の方に気軽に来て頂けるよう毎月第4日曜日に地域カフェを開催し相談にのれるようにしている。また、認知症講座をカフェ内にて開催し要請があれば地域団体やボランティア団体等への認知症講座も行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た外部者からの意見や提案を施設長・管理者・計画作成者(リーダー)で運営会議、全体会議等で報告し改善に繋げている。与薬間違い防止のための対策を会議での提案を取り入れ取り組んでいる。	運営推進会議は規程を定め、年6回定期的に開催しています。参加者は利用者家族、民生委員、市職員、他市の元グループホーム管理者、歯科医師等多方面の方が参加しています。会議ではホームから利用者状況、活動報告等行っています。会議はホームからの報告だけでなく、「自分たちの考えや支援方法が一般的にどうなのか、間違いないか」等も確認する機会と捉えています。参加者からの助言で、よく行く公園の名称を「・・・霊園」と記載していることから、利用者の気持ちに配慮し名称変更した事例があります。会議では毎回テーマを決め、参加者と意見交換し、出された意見は運営やサービス向上に反映させています。会議録はホームページに掲載し、誰でも見るができます。	会議では毎回テーマを決めて参加者と意見交換を行っています。 会議のテーマに「介護計画」を取り上げ、「グループホームみやび」が行っている個別ケアについて意見交換をすることで取り組みを知ってもらい、理解を深めてもらってはいかがでしょうか。今後の取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>日頃より電話やメール、訪庁して連絡を取り合い、相談等している。運営推進会議でも報告、相談している。 その他、キャラバンメイトや(認知症)オレンジ新聞発行、介護フォーラムなど認知症に係る事柄には積極的に連携、協力している。 昨年度より定期的に市社協と協力して福祉職員就職相談会も開催している。</p>	<p>市の担当者とは、会議や書類提出等で市役所へ出かけた際に、その都度情報交換を行い、連携を深めています。運営推進会議にも、市職員が参加しています。認知症キャラバンメイトやフォーラム等、市と共に取り組んでいます。管理者は、市内グループホーム部会で主導的な役割で協力しています。市からの介護相談員の訪問も、サービスの向上・改善に役立っています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束防止マニュアルを作成し、各ユニットに設置している。 身体拘束防止に関する勉強会、検討会も実施している。玄関やエレベーターに鍵はかけず、入居者の自由な暮らしを大切にしている。</p>	<p>管理者は、言葉の拘束を含む身体拘束に関しても厳しく真剣に取り組んでいます。身体拘束や高齢者虐待についての勉強会を実施しています。マニュアルも整備しています。高齢者虐待自己点検シートを用いて職員各自が振り返りを行っています。チェックリスト解説として、利用者・家族がどう感じているか「高齢者の気持ちを起点にする」等、新人職員にも理解しやすい説明が用意されています。また、個別のリスク度を測る「個別リスクシート」の活用は、身体拘束防止に大きく繋がっています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成し、各ユニットに設置している。 毎年、虐待についての勉強会を開催し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族より相談のあったケースについては相談にのり助言等を行っている。 管理者、職員は権利擁護に関する勉強会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分な時間をとり説明し、納得頂けているかどうか質問・疑問点を確認しながら進めている。契約後の制度改正時は文書を作成し説明、同意を得ている。 また、普段より家族の経済的負担にも配慮したサービス提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>羽曳野市より月に1回の介護相談員の派遣事業を受け入れており、意見を出せる場を提供している。また管理者・リーダー・職員ともに要望等を聴く機会を持つようにし苦情要望に対しマニュアルを作成しマニュアルに沿って対応できるようにしている。</p> <p>年1回グループホーム全体での家族会を開催し介護相談員に同席してもらい家族に意見を出してもらえるようにしている。</p>	<p>運営推進会議に家族が参加したり、年1回家族会を行い、市の介護相談員を交え意見交換することで、家族等の意見や要望を表せる機会にしています。職員は把握した意見、要望を苦情・要望受付簿に記載し、サービスの改善に反映させています。</p> <p>月1回発行の「フロア便り」や、3ヶ月毎に利用者一人ひとりの生活の様子を「ライフレター」として家族に送り、日頃の暮らしぶりを伝えています。</p>	<p>家族の意見・要望を更に有効にするため、ホームとして確認したいテーマに絞り、アンケートを実施されてはいかがでしょうか。その際、ホームの取り組み状況での良いところ、評価できる点も同時に確認されてはいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表者が職場改善・提案書を常時受け付けている。またフロアミーティングや運営会議で意見を聞く機会も設けている。各ユニットでもいろいろな意見を出せる環境づくりを目指し、出た意見を活かすようにしている。また、個人面談時にも施設に対する要望、意見等を聞き改善できるものはしている。</p>	<p>管理者は、利用者支援に関する企画・実施を、リーダーの裁量に任せています。フロア会議・各種委員会・運営会議・リーダー会議等で、ホームの運営について話し合っています。管理者と職員の信頼関係がよく、職員の意見が尊重される職場環境のもと、職員の士気を高めています。人事考課は、非常勤職員を含めた職員間の相互評価の方法で実施しています。各ユニットのリーダー達は、「職員のこと考え、気持ちよく仕事ができるようにすること」を大切に、リーダーとしての役割に取り組んでいます。夜勤体制として、準夜勤を1名加配する等、職員が安心して働けるよう、職場環境に配慮しています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>隔月、運営会議を開催し各事業所、ユニットの状況や実績把握に努めている。 チームワークや組織力を高めるため法人理念をもとに判断基準、行動指針を作成している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部の勉強会は毎月開催している。年に数回外部講師を招いての法人内研修も実施している。 外部研修は各職員の勤続年数やレベルに合わせ管理者が参加の意思を確認し参加してもらい、費用は法人が負担している。 内部研修、外部研修以外にリーダーから、職員個々に年度目標を設定し定期的に面談を行い達成に向けて取り組んでいる。職員個々の目標を一覧にして共有している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は2ヶ月に1回、市内の他グループホーム管理者と意見交換を行っている。また計画作成者を中心として他グループホーム同士の集まり「計画作成者の集い」を毎月開催し交流を深めている。 年2回(5月、11月)他グループホームとの職員交流勉強会も定例にて開催している。市内グループホームの入居者の交流会も3ヶ月に1回「にじの会」と銘打って開催している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ユニットリーダーが初回面接時に管理者と同席し本人や家族より要望や不安な事を聴きサービス計画、サービス提供に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談員や担当ケアマネより情報提供を受け相談時や初回面接時に家族より要望や不安な事を聴きサービス計画、サービス提供に活かしている。入居時、住み替えによるリロケーションダメージを最小限に抑えるため家族と相談、連携を図っている。 また、定期的に待機の方へは、状況確認の連絡を入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談のケースに応じ他のサービスや自施設の空き情報などの提供、空室のある他のグループホームの紹介も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や身の回りの事を職員と一緒に 行う中で経験に基づいた事を教えて頂 いたり、日常生活と一緒に過ごす事で 喜怒哀楽を共感できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場 におかず、本人と家族の絆を大切にし ながら、共に本人を支えていく関係を築 いている	家族に気軽に立ち寄ってもらえるよう な雰囲気作りをし、来苑時に状態や状 況報告を行っている。また、状態に変 化があればすぐに連絡し相談したり面 会の少ない家族には訪問し現状報告 も行っている。 毎月フロアだよりを又3ヶ月に1回写真 を付けたライフレターを個別に郵送し 行事内容や状態を報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支 援 本人がこれまで大切にしてきた馴染 みの人や場所との関係が途切れないよ う、支援に努めている	本人の要望により個別対応にて馴染 みの場所へ行ったり、馴染みの人と会 えるように支援している。 発言の困難な方には家族への聞き取 りや生活歴の中から考え実施してい る。	入居前の利用者の暮らしぶりや、趣味 特技、好きな事等、職員は家族から情 報を得て生活歴シートに記録し、職員 間で共有しています。また、利用者 との日常会話から馴染みの人や場所等 を知ることもあります。友達や近所の 人がホームを訪問しています。入居後 も図書館に出かけている利用者もいま す。職員は、馴染みの人や場所との関 係が途切れることがない支援の意義を 理解しています。自宅復帰につなが った事例が2例あります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の相性を考え座席などに配慮し過ごしやすい環境をつくっている。また、家事やフロア行事にて入居者同士が関われるよう働きかけている。フロア間の交流もできるようにクラブ活動や合同外出等を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に継続的な関わりを必要とする入居者は現在いないが必要な時は便り等を送付することとしている。ご家族にはいつでも気軽に来苑してもらえるよう声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から思いや意向を聞いたり家族からの情報も取り入れている。年1回スタッフ各自でアセスメントシートを作成、随時更新し情報の共有に努めているが職員によって共有されていない事もある。	職員は日々の会話や仕草から利用者の思いや意向を把握するように努めています。日常の中での気づきや発見は、毎日の支援経過記録に残し、職員間で共有しています。記録をより活用できるように、記録様式の見直し・改訂を行いました。外出の機会を積極的に設けていますが、外出を「個別に関わる機会」とも位置付けています。一対一で関わることで、心を開いてもらうことができた事例があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴シートを家族に記入してもらっている。入居後は家族来苑時に不足情報を積極的に聞き取りを行っている、また本人にも普段の雑談の中から情報を得たり、カンファレンス時にも知り得た情報を職員間で共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間の申し送り表や支援経過記録を活用し把握に努めている。定期的、または必要時にケア・カンファレンスを開催し一人ひとりのアセスメントを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>各職員に介護計画についての意見(気になる点・プランの変更点・対応策等)を記入してもらい支援経過記録の内容をまとめカンファレンス時に活用し業務時にも各職員から入居者の要望・想いを聞き取り出来るように努めている。また、毎日のモニタリングを基に目標の設定変更を行っている。</p>	<p>利用者、家族より聞き取った情報を基にアセスメントを行い、介護計画を作成しています。介護計画は3ヶ月毎に見直し、状況に変化があった場合は随時見直しています。支援経過記録には、毎日実施された状況や変化を記載し、関わった職員の気づきや問題点もその都度記入しています。支援経過記録の内容をもとに、毎月の会議でカンファレンスを実施し、介護計画に反映させています。計画作成担当者は、「利用者ができることを奪わない介護計画」「その人にとって必要な介護計画」を心がけて介護計画作成にあたっています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護計画、モニタリングと関連づけた記録(支援経過記録)を記載し共有している。また職員の感じた入居者への気づきやケアの分析も記入できるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>個別対応に重点を置き、入居者のニーズに応じ帰郷や帰宅、墓参り、慶弔事等の協力体制を取り支援している。家族の希望があれば積極的に外出や行事に参加してもらっている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>入居者の意向に沿って、お茶の先生にボランティアで来てもらっている。傾聴ボランティアにも来ていただき支援の一部を担ってもらっている。3ヶ月に1回、入居者交流会「にじの会」に2～3名参加している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に同意のもと、かかりつけ医を選択してもらっている。月2回の往診に加え体調不良や熱発、感染症の疑いのある時は受診または往診してくれている。点滴や褥瘡の処置など医療行為を継続して行う場合は家族、本人が訪問看護と契約、利用している。、若しくは受診している。また必要に応じ、かかりつけ医より専門医への紹介を受け受診している。	医療機関への受診は、入居契約時に利用者、家族の意向を聞き、適切な医療が受けられるよう支援しています。かかりつけ医への受診は家族が同行していますが、都合がつかない時は職員が対応しています。大半の利用者は月2回の協力医療機関、歯科の往診を受けています。また利用者の状況によって必要に応じ往診や受診を行える体制にあります。看護職員は、協力医療機関や利用者のかかりつけ医いつでも連絡・相談ができ、必要な指示を受けています。緊急対応や24時間体制が整っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の異変等に関しては介護職と看護職が連携を取りながら情報共有している。また看護職員も医療面のカンファレンスに積極的に参加している。看護職共同し急変・事故対応や薬剤等の勉強会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入居者が入院した際には医療機関に情報を提供し管理者・職員が交代で面会に行き、状態を確認し家族や医療相談員より情報を収集している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時や状況の変化時は本人や家族の要望を早期に把握できるよう日頃より情報収集している。</p> <p>終末期には対応できる事、出来ない事を説明し書面で意向を確認している。また定期的に家族の意向に変更がないか確認もとれるようにしている。</p> <p>ターミナルケアについてはミーティングや勉強会等で話し合い対応を考えている。また、入居者の死亡後には死後カンファレンスを開催し実施したターミナルケアの評価を行い今後に繋げている。</p>	<p>重度化や終末期の対応については、入居時に看取りの指針をもとに家族や利用者に説明を行っています。「最後まで楽しみを味わってもらおう」との考えで、その人らしい看取りケアを行い、亡くなる2日前に自宅を見に行ってもらった事例があります。看取り後は、死後カンファレンスを実施し、今後の看取りケアの質の向上に繋げています。職員は、看取りの貴重な経験から「亡くなるまでの QOL の大切さ」を学び、日常のケアに活かしています。また、「最期の瞬間が自分の勤務の時でよかった」と思えるようになりました。今後も、「苦しまず・褥瘡等がないきれいな体で看取ることができるケア」に努めていく考えです。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニットに事故対応マニュアルを配備している。急変や事故対応についてはマニュアルを基に毎年、勉強会を開催している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期的な避難訓練を実施している。また火災発生時の通報、初期消火訓練を毎月開催している。 非常時備蓄表を作成し飲料水と食料、その他の物品の備蓄を計画的にしている。	防災マニュアルを整備し、年2回の定期的な避難訓練を実施しています。毎月フロア毎に行う訓練では、火災発生時の通報や初期消火、避難訓練等を利用者と共に行っています。職員の手薄な時間帯での訓練も取り入れています。各ユニットの広いテラスには、避難用ハッチが設置され、滑って下の階に避難することができます。災害用備蓄は各ユニットの倉庫に保管し、備蓄表で数量、消費期限を管理しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<p>接遇やプライバシーの保護について勉強会を行い月1回ミーティングで言葉遣いや態度、家族の前でも出来る接遇について話し合いを行い日々職員間で意識できるようフロアの目標に掲げている。また朝礼時に全体接遇目標も掲げ取り組んでいる。また外出報告書に接遇評価欄を設け改善できるように努めている。</p>	<p>職員は利用者を尊重し、丁寧で穏やかに接しています。接遇やプライバシーの保護については、全体会議やフロア会議の時に勉強会を実施しています。毎月の接遇目標に「言葉遣い・接する際の態度に気をつけましょう」や「目線を合わせて丁寧な言葉で話しましょう」等を掲げ、できたか、できなかったかをフロアで評価して接遇の向上に努めています。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<p>普段の会話の中から希望を聞き出している。 意思疎通が困難な方にはこちらから提示し選んで頂くようにしている。 選択する機会を増やし自己決定ができる環境作りに取り組んでいる。</p>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<p>起床、食事等の時間は各入居者のペースを大切にし自由にしてもらっているがペースが作れない方には声掛け誘導等行っている。入浴の時間に関しては職員側の都合により時間を決め入浴してもらっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問理容を利用している。他店を希望される入居者がいれば個別に対応している。季節に合ったみだしなみができるように定期的に居室担当者が衣替えも行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの際、何ができるか考えながら買い物にも日替わりで全員が行けるように努めている。食器洗いや準備等もできる範囲で各入居者にしてもらっている。	朝食やごはん、味噌汁、週3～4回の食事は各ユニットで職員が手作りしています。それ以外は1階の厨房で作っています。献立は利用者の希望を聞き、買い物、調理、盛り付け、片づけ、食器洗い等、職員と利用者で共に行っています。利用者が若い職員に調理方法を助言する場面もあります。盛り付けは職員が見本を作り、利用者ができることが増えるように工夫しています。ごはんの盛り付けや配膳は各自が行い、手押し車の上ののせ席まで運んでいる利用者もいます。役割が生きがいとなるよう支援しています。理念に沿って、家事活動を大切な事ととらえ、利用者のできることを奪ってしまわないケアの実践に努めています。職員は利用者と同じ食事を一緒に摂り、会話を楽しみながらさり気なく声かけや見守りをしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック表を活用し日々の摂取量を把握して、その方の好き嫌いや状態に応じて別食、一口大など食事形態を変えている。入居者の状態によっては施設の食事を中止し食べやすい介護食に変更もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に1回口腔ケア指導、月に1回歯科検診してもらい、変化等あれば相談している。 嚥下機能の低下が見られる方には介助にて毎食後に口腔ケアを行い口腔内の確認を行っている。また義歯の入居者には入床前に洗浄剤を使用し義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者の排泄パターンを把握し誘導することにより日中はできる限り布パンツにて過ごしてもらっている。失敗を減らすため時間が空いている入居者には声掛け誘導を行っている。 介助が必要な方には夜間はリハビリパンツ・パット・オムツ等を使用してもらっているが、できる限りトイレでの排泄が出来るように支援している。	職員は排泄パターンを把握し、様子を見ながら声かけやトイレ誘導をしています。管理者は、「トイレはパッドを交換する所ではない」とトイレでの排泄の大切さを職員に伝え、日中は布パンツ使用で過ごしてもらい、できるだけトイレで排泄する支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通剤の服用は状態により調節し食後にヨーグルトや乳製品を食してもらったり1日の水分摂取量に気をつけ便秘を予防している。また日中の活動量を増やすため家事・フロア行事・外出等を促進している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間は職員の都合に合わせて入浴してもらっているが可能な限り希望の時間に入れるよう考慮している。また身体的に入浴が困難な入居者には職員複数で入浴介助行っている。	利用者は週に2～3回入浴しています。入浴日が偏らないように一覧表にしています。好みのシャンプーやリンスを持ち込んでいる利用者もいます。入浴の苦手な利用者には、家族の協力を得たり、声かけのタイミングや仕方を工夫して入浴支援をしています。浴室は清掃が行き届き、清潔です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床、起床、昼寝の時間は本人の意思でできるようにしているが1日のリズムが作れない方に関しては職員側で1日のリズムが作れるように家事等の声掛けを行い配慮している。またフロア行事・外出を促進する事で夜間に気持ち良く眠れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時の服薬表を使い情報の共有に努めている。服薬ミスが起こらないよう服薬マニュアルに添って複数の職員でチェックしている。薬の効能や副作用に関してもその都度医師・看護職と連携し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の会話や家族からの聞き取り、生活の中で何ができるかを見つけカンファレンスを行い介護計画に取り入れ楽しみと役割を持ってもらえるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ユニットで月に全体外出・グループ外出・個別外出の企画をし本人の希望・関心の場所に行けるように支援している。また企画外での外出も臨機応変に実施できるように職員間で連携を取っている。	ユニット単位での外出、全体での外出、個別での外出、1泊旅行等をしています。日常的には、散歩や買い物、ドライブに出かけています。初詣、花見、地域の夏祭り、近隣の神社仏閣、公園、大型ショッピングセンター、地域のサロンやカフェ、美容院、図書館などへも出かけています。夜に公園のイルミネーションを見に行くこともあります。今年の1泊旅行では伊勢志摩方面へ行きました。にじの会(市内のグループホームの入居者が交流する会)では、3ヶ月に1回、花見、みかん狩り、バーベキューなどに出かけており、外出の機会が多くあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理困難な入居者は事務所・家族で管理している。何か購入品あれば一緒に買い物に行き、できる限り選んでもらえるようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本氏自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>1階に公衆電話を設置している。緊急時や電話があった時はユニットで取り次ぎ出来るようにしている。 手紙もいつでも出せるように配慮している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感がわかるようにユニットにはその季節に合った貼り絵や手工芸品を置き時計やカレンダーを目に入る場所に複数掲示している。毎月の予定もフロアに掲げ安心してもらえるよう努めている。	共有空間は広くゆったりとした雰囲気です。各階、エレベーターを降りると、利用者・職員の笑顔の写真が出迎えてくれます。フロアには、季節を感じる掲示物や手作りの暖簾、絵画が掛けられています。外出時や旅行の際に撮った利用者の笑顔がいっぱいの写真も飾られ、楽しい思い出を共有しています。居間兼食堂以外にもゆったりとしたソファを置き、くつろげるスペースを設けています。各階に広いテラスがあり、食事やバーベキューを楽しんだり、お茶を飲んだり洗濯物を干したりする場となっています。自由に出入りができ、テラスに出て、朝日を感じる利用者もいます。共有スペースには、掃除道具や物干しハンガーなどの生活用品が自然に置かれ、フロアで利用者と職員と一緒に笑いながら洗濯物を干している光景は、ホームでは当たり前の光景となっています。3つのユニットそれぞれ、工夫を凝らした共有空間となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食卓にはテーブル席・ソファ・テレビ等を置き、家庭的でゆっくりと落ち着いて過ごせるようにしている。サンルームにも少人数で過ごせるようにソファやテーブル席・作業レクにて制作した品物を置き工夫している。利用者の状態、状況に応じて PEAP を用いて環境を整えている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室前の棚・壁には手工品や手作りの木製の名札・写真を飾りわかりやすいようにしている。居室にはタンスなど自宅を使い慣れたものを出来るだけ持参してもらっている。その都度必要な物あればコストを考慮しながら家族と連携を取り購入している。</p>	<p>各居室前の小さな棚には、手芸品や写真、小物を置いています。表札の横には名取名を一緒に掲げている利用者もいます。ユニットによっては、入居記念日を祝って写真を撮り、それを年ごとにつなげて居室入口の壁に飾って、利用者の歴史が感じられるように工夫しています。室内のエアコンとベッドはホームで用意していますが、タンスやテーブル、椅子、収納ケース、家族の写真や肖像画、時計、ラジオなどを持ち込んで利用者が居心地よく過ごせる居室となっています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室からフロア、トイレへ移動する廊下に手すりを設けている。車椅子の方でも洗面所やトイレを使えるように工夫している。各居室、トイレ、浴室、洗濯室、階段扉には名札を貼っている。トイレ扉にはサインポスターを掲示し内部には日めくりカレンダーを掲示している。</p> <p>ユニット内の目が行きやすい7か所に大きな時計を設置している。</p>		